

「障がいの社会モデル」とは

「立って歩けない」、「目が見えない」、「耳が聞こえない」等の心身機能の制約が「障がい」と捉えられがちですが、「階段しかない建物」や「高いところに商品を置いた陳列」など、

障がいは、社会に多様な人がいることを考えずに作り出された社会的障壁によって生み出されるものであり、この社会的障壁を取り除くのは、社会の責務であるという考え方が

「障がいの社会モデル」です。

◆ 身の回りの様々な障壁(バリア)

交通機関、道路、建物等において利用者に移動面で困難をもたらす物理的なバリアのことを言います。

- 建物の入口に階段しかない。
- 低い位置にある看板などの突起物は白杖では確認できないため危険。
- 視覚障がい者誘導用ブロックが敷かれていない通路は、視覚に障がいのある方にとっては、移動が困難。

物理的
バリア

社会のルール、制度によって、障がいのある方が能力以前の段階で機会の均等を奪われているバリアのことを言います。

- 書面の交付、資料の送付、パンフレットの提供等を拒まれることがある。
- 賃貸物件の入居を希望する障がいのある方に対して、障がいを理由とする誓約書の提出を求められることがある。

制度的
バリア

- 点字、手話通訳のない講演会。
- 視覚に頼ったタッチパネル式のみの操作盤、音声のみによるアナウンス。
- 分かりにくい、難しい言葉など。

文化・情報の
バリア

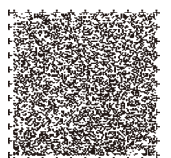
情報の伝え方が不十分であるために、必要な情報が平等に得られないバリアのことを言います。

心の
バリア

- 精神障がいのある方は何をするか分からないから怖いという偏見や犯罪と結びつける発想。
- 理解せずに、かわいそうな存在だと決めつけたり、障がいのある方に対する高圧的な態度など。

周囲からの心ない言葉、差別や無関心等、障がいのある方を受け入れないバリアのことを言います。障がいに対する誤った認識から生まれます。

※ 「こころと社会のバリアフリーハンドブック 障害ってどこにあるの?」(国土交通省)
<https://www.mlit.go.jp/common/001250069.pdf> を編集して作成



おんせい
《音声コード》